

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立羽山台小学校（※正式名称を記載）
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒837-0917
福岡県大牟田市大字草木587番地3

E-mail hayamadai-es@st.city.omuta.fukuoka.jp
Website <http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/hayamadai-es/>

幼児児童生徒数 男子 194 名 女子 154 名 合計 348 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

当校は、「かかわり・つながり・だれかのために」を活動テーマとして、ESDを「世界中のみんなの幸せのために 自分にできることを みつめよう はじめよう つづけよう」と全校児童の合い言葉にESDの実践を行っている。ESDの実践を通して、持続可能な発展に関する価値観、コミュニケーション能力、体系的な思考力の育成を目標とした。

具体的には、福祉教育・環境教育を柱に、①福祉に係わる学習②地域とのつながり合う町づくりを目指した国語科学習と関連した学習③ボランティアに係わる活動を行った。

① 福祉に係わる学習

3年総合的な学習の時間「よりよいくらしについて考えよう」では、視覚や聴覚に障害があるかたとの交流会を通して、生き方を学び、また互いのよさを分かり合うことで、これからの生活範囲が広がっていく段階において、共に生きていくことの大切さに気付いた。

実際の学習は、目が不自由な方との交流会・点字教室・耳が不自由な方との交流会を行った。子ども達は「障害がある方は大変だろう」と思っていたが学習を通して、「障害がある方も、いろいろな趣味を持って前向きに生活を楽しんである」ということを知り、見方が広がった。また、一生懸命に生きることの大切さを学んだ。

更に、聴覚に障害がある方から教えてもらった手話に興味を持ち、2月の学習発表会では手話を用いた歌を披露することができた。

② 地域とつながり合う町づくりを目指した国語科学習と関連した学習

6年国語科学習「町の幸福論ーコミュニティーデザインを考える」では、未来の大牟田につながるように、自分達で考えた羽山台校区のよさをまとめ、プレゼンテーションソフトを使って地域に提案した。

実際の学習では、国語科教材文をもとに活動の方向性を持たせた。まず、地域の願いを知るための情報収集を行った。そこから「羽山台校区のよさを生かし、人と人がつながり合える活気のある町にしよう」という目的から、『私たちの提案』として6つの提案を行い、地域に発信した。

③ ボランティアに係わる活動

「特定非営利活動法人さわやか青少年センター」が行っているボランティアパスポートの取組を、幼保園児との交流・地域のお年寄りの方との交流・老人ホームの方々との交流・地域の清掃活動等と関連させて行っている。この取組では、学校で行うボランティア体験学習や学校外の時に個人で行うボランティア活動のたびにパスポートにその時の感想を記していくことにしている。年間を通して取り組んで、社会貢献団体に寄付されることになった。

また、PTA主催の羽山まつりにおいては、社会福祉協議会から募金箱や法被を借りて赤い羽根共同募金活動を行った。募金額はすべて社会福祉協議会に寄付した。7月の九州北部豪雨災害の折にも義援金をおくるために校内で募金活動を行った。

これらの活動を通して子ども達は、共にみんなが幸せに生きていくために、人と人がお互いに支え合うことの大切さを学んでいた。



①手話を用いた歌（学習発表会）」



③PTA主催の「羽山まつり」における募金活動



②プレゼンテーションソフトを使っての「私たちの提案」を発信

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(学校行事)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「福祉教育」「環境教育」に係わる学習については、教育指導計画の各教科の年間指導計画に位置づけ、学年末には教育課程編成会議において、学習過程、指導内容などについて改善に努めている。

また、ESDカレンダーを作成し、各教科等との関連化を図り、系統的な学びとなるようにしている。

特に、国語科学習との関連化については、ESDとの内容面と方法面から仕分けし、総合的な学習の時間の見直しを行って学校の特色の打ち出しに向けて見直しをしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教育指導計画書にESD年間指導計画及びESDカレンダーを作成し、教科等横断的な学習ができるようにしている。

また、大牟田市ユネスコスクールの日に合わせて、「ユネスコスクール集会」を開いて、各学年の活動報告やESDに関する学習の掲示物などをもとに学校全体でESDの学びを共有する取組を行っている。

研修面では、大牟田市で行われているユネスコスクール及びESD研修会に全員参加の体制を整えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、大牟田市教育委員会へESDの取組についての報告書を作成している。その報告書の内容をもとに、次年度に向けての職員で成果と課題を共有している。

ESD展示会を行い、保護者及び地域の方に参観してもらっている。また、まちづくり協議会の場においても、取組を伝えることで、「人と人とのつながり・地域と学校とのつながりを重視する」という共通した目的を共有できている。

課題は、職員が交代する中でどのようにESDを引き継いでいくのかである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本年度は、6年生が取り組んだ「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」の学習では、地域の願いをもとに、子ども達が「私たちの提案」として地域にプレゼンテーションソフトを使って発信した。

その発信する活動を行ったことで、地域から様々な行事予定の案内があり、子ども達は積極的にそれらの行事に参加するようになった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

大牟田市コンソーシアムより研修会参加や活動の支援を受け、各学年の実践に生かしている。

4年生環境学習では、大牟田市環境業務課からごみのリサイクル等の紙芝居や社会見学でのガイドをしてもらった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

子どもの作品等の交流はないが、市内の小学校で、本校の取組内容と共通する学校との情報交換を行い、各学年の取組の参考としている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

本校ではESDを「世界中のみんなの幸せのために 自分にできることを みつけよう はじめよう つづけよう」という合い言葉で子ども達に伝えている。そのためには、まずは身近なことから始めることが大事である。つまり、「地域を知る」ことが出発点となると考えている。
そして、地域から学んだことを発信し、他校と交流することで、より意欲的で深まる学習が展開できるのではないかと考えている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

主として、生活科及び総合的な学習の時間に取り組んでいく。
1年生「むかしからのあそびをしよう」（福祉）
2年生「おいしいの気持ちをつたえよう」（福祉）
3年生「よりよいくらしについて考えよう」（福祉）
4年生「守れ！21世紀の大牟田」（環境、地域）
5年生「探検しよう『みんなの地球』」（環境）
6年生「心のふれあい、伝え合い」（福祉）
「町の幸福論」（福祉）
また、羽山台校区の教育資源を洗い出し、教科等横断的な学習の視点から主として国語教育との関連化を図り、内容面と方法面を明確にして教材開発を行っていく。